

技術者の会 “ニュースレター”(issue17)

Professional Engineers Association of Urban Disaster Preparedness

発行日：平成21(09)年1月1日
事務局：(太田ジオリサーチ内)
都市災害に備える技術者の会
〒651-1432
兵庫県西宮市すみれ台3-1
TEL:078-907-3120 FAX: 078-907-3123
URL:<http://toshisaigai.net/>
e-mail: office@toshisaigai.net

TOPICS

1. ご挨拶…………… 1
2. 事務局より…………… 4
3. 行事予告…………… 5
4. 活動報告…………… 6
5. カレンダー…………… 8

1. ご挨拶



新年を迎えて

理事長 室崎 益輝

明けましておめでとうございます。

私たちの「NPO 法人 都市災害に備える技術者の会」が発足しての5周年を、今年は迎えます。草創期の模索の段階から脱皮して、発展期の成長の段階に歩を進めることが求められている、と、いって過言では有りません。というのも、次の巨大災害の発生が刻一刻と迫っているからです。次の災害に間に合うように、少しでも実績をあげ力を付けておかなければなりません。そのために、皆さんと力を合わせて努力していく決意を、新たにしています。

この新年にあたって、3つのネットワークの強化を当面の目標として提示しておきたいと思えます。その1つは、技術者相互の連携の強化です。OBも含めた多様な技術者や技術組織との連携をはかるプラットフォームとしての役割を果たせるよう、努力したいと思います。第2は、自治体との連携の強化です。災害予防や応急対応における専門家の役割は年々大きくなっています。この役割に応えるために、自治体の防災業務を専門家サイドから支援する取り組みが欠かせ

ません。計画策定や防災調査などの技術支援がはかれるよう、自治体にも働きかけていかねばなりません。3番目は、世代を超えた若者との連携の強化です。防災教育の取り組みを強め、防災に役立つ技術の伝承をはからなければなりません。子ども向けの防災教科書の編纂などにも、取り組めればと思っています。

そのためにも、役員、企画委員会、事務局が率先的に取り組むことが求められますが、それに加えて、会員の皆さまの本会へのご支援が欠かせません。今まで以上の皆様のご協力をお願いいたします。 以上

新年を迎えて

名誉理事長 笹山 幸俊

明けましておめでとうございます。

皆様にはご家族と子どももよき新年を迎えられたことと推察いたします。今年は「牛年」に当たります。その姿形にも見える通り「忍耐強くそして辛抱強く」の一念を押し通す年ではないでしょうか。

昨年の7月に、私は「NPO 法人 都市災害に備える技術者の会」の理事長の役目の後任を、快く引き受けて下さった室崎益輝先生(関西学院大学総合政策学部教授)に託しました。振り返りますと、自然大災害に備え、これに耐えてその後始末をすることは一筋縄で済ませられるものでもなく、個人個人ばらばらで対応していると限りない損失と犠牲を永久に繰り返す事になります。ここで、この負の連鎖を断ち切るためのネットワークづくりなどを目的とした組織づくりを有志の人達とはじめました。それは平成14年(’02)秋頃の事でした。それから多くの障害と闘いながら、NPO 法人を立ち上げ内閣府に認証されたのが平成



16年（'04）4月でした。

このようにして多くの先輩、仲間の人達と活動を続けることが大切です。私の健康の許す限り皆様と共に歩み続けたいと思っております。そのスピードがたとえ牛歩であろうとも、一步一步確実にと思えます。

会員の皆様のご健康とお仕事が順調でありますように。また、各界、各位の皆様には今後とも本会へのご協力、ご支援をお願い申し上げます。 以上

新年おめでとうございます

今年も皆様とご家族の益々のご発展とご健康を祈願し、役員会と企画委員会と事務局一同と共に新年のご挨拶を申し上げます。

河田恵昭 梅田昌郎 溜水義久 柏原士郎
片瀬範雄 山田俊満 他役員、企画委員会委員
事務局員一同

新年を迎えまして、今年も各界の先生よりご丁重で誠意の溢れる新年のご挨拶を賜りましたので、謹んで以下に掲載しご紹介申し上げます。また皆様におかれましては今年も益々ご健勝にて、ご発展の年でありますように一同祈願申し上げます。尚、国土交通省官房長増田優一様（'06.7～'07.7内閣府政策統括官防災担当）より激励と新年のご挨拶を賜っております。

新年のご挨拶

国土交通省都市・地域整備局長
加藤 利男

新年おめでとうございます。

前任の防災担当政策統括官時代には貴会の皆様にもいろいろと現場の声等をお聞かせいただき大変ありがとうございました。

昨年7月に現職に異動いたしました。都市・地域整備局においても都市・地域安全課が新たに設置され、都市防災の観点を含め広く安全・安心に関するまちづくり施策を総点検し、今後の方向を打ち出していこうということで社会資本整備審議会に小委員会を立ちあげ検討を開始しているところです。地域住民の方々を都市災害から守る取り組みを精力的に続けられて

いる貴会の皆様には、引き続きご支援をお願いいたしますとともに貴会の更なるご発展を期待するものです。本年もどうぞよろしく願いいたします。

以上



新年のご挨拶

内閣府政策統括官（防災担当）
大森 雅夫

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年7月に現職に就き、初めての正月を迎えることとなりました。まだ半年間にも満たない期間しか経過していませんが、その職責の重さに改めて身の引き締まる思いで一杯です。振り返れば、就任直後から大規模地震や水害（いわゆるゲリラ豪雨）に立て続けに見舞われ、災害応急対応に追われる日々を過ごすこととなりました。

私たちは、こうした大規模な災害に際しては「共助」の役割が大変重要であることを申し上げてきておりますが、貴会の活動は、行政と市民、技術者と一般の方々をつなぐネットワークを構築することでこうした「共助」を促進するものと受け止めております。私たちがこうした活動の今後の展開に期待し、心から応援いたしております。

本年もどうぞよろしく願いいたします。 以上

「都市災害に備える技術者の会」への期待

国土交通省大臣官房広報課長

渋谷 和久



新しい年を迎え、一言ご挨拶申し上げます。さて、この場をお借りして皆様にご紹介したいことがあります。

大きな災害が発生すると、地方公共団体だけでは十分な対応ができないことが多いことから、昨年5月、国土交通省は「緊急災害対策派遣

隊（TEC-FORCE）」を発足させました。

TEC-FORCEは、大規模自然災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、被災地方公共団体等が行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的としたものです。本省、国土技術政策総合研究所、国土地理院、地方支分部局、気象庁に設置され、先遣班、現地支援班、情報通信班、高度技術指導班、被災状況調査班、応急対策班、輸送支援班、地理情報支援班、気象・地象情報提供班より構成されます。

大規模自然災害が発生したときは、被災地にTEC-FORCEを派遣し、被害状況の調査、被害の拡大防止、早期復旧に関する地方公共団体等の支援を行うこととなります。災害が、国土交通省が管理する直轄施設関連かどうかには関係なく、とにかくいち早く支援をしようとする発想です。

昨年発生した岩手・宮城内陸地震では、のべ1499人のTEC-FORCEを派遣し、それぞれの分野で活躍しました。

私ども国土交通省では、全国各地に展開するそれぞれの現場で、毎年のように災害対応を経験していることから、それぞれの技術職員に「現場技術」というようなものが蓄積・共有されています。これを、他の地域で発生した災害対応支援にも活用しようというものです。

「NPO法人 都市災害に備える技術者の会」も、技術者としての知見や経験を、都市防災に活かそうとの趣旨で設立されたものと承知しています。従来のNPO法人に見られない、ユニークな発想で、技術者の皆さんを中心にネットワークを広げようとされています。TEC-FORCEのような行政資源を活用するものとは違って、皆さんのソフトな資源をどのように活かされるか、という点に大きな関心をもって注目と期待をしています。災害対策は、行政だけでできるものではありません。皆さんのような専門家集団の力が、行政と連携して十全に発揮されることで、大きな力になるものと信じています。本年の一層のご活躍を期待しています。

以上

平成20年度「全国防災まちづくりフォーラム」について

内閣府政策統括官（防災担当）付企画官
伊丹 潔

例年、全国の防災まちづくりに取組む各地域の諸団体、企業、NPO法人などの関係者が集い、相互を励まし合う場とすることを目的に開催されてきた「全国まちづくりフォーラム」が、今年度は「被災してわかること」をテーマに、基調講演、被災地域の皆様を招いたリレートーク及び過去のフォーラム参加団体の皆様等によるパネルディスカッションといった内容で展開されました。

本稿では、そのうち、基調講演とパネルディスカッションの様子を報告いたします。

基調講演は、「防災まちづくりは『わがこと』と『大きなお世話』から」と題するもので、(株)毎日放送ラジオ局報道部副部長で、阪神・淡路大震災をきっかけとする長寿防災情報番組「ネットワーク1・17」のプロデューサーでもある大牟田智佐子さんにより行われました。番組パーソナリティの自宅を突然訪問し、防災診断を行った際の様子が会場内に流されたり、番組取材に際して出会われた防災まちづくり活動の具体的事例が紹介されたりといったように、テーマとされた話題の身近さを意識させる工夫が随所に織り込まれつつ、災害時に結束力が発揮されるコミュニティづくりの大切さが訴えかけられました。さらに、「想定外のことが起きる震災下では、とっさの判断ができる人間力が必要。そんな力のある人材を生み出していない“まちづくり”は、人を巻き込んでいく“ダチづくり”なんです。」と記憶に留まるフレーズでまとめられました。

パネルディスカッションでは、パネリストとして、宮城県・福住町内会会長の菅原康雄さん、三重県・特定非営利活動法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿事務局の船入公孝さん、奈良県・西大和6自治会連絡会事務局（防災担当）の辻誠一さんの3名と、開催地さいたま市から三橋コミュニティ役員の清水恒男さんにご参加頂きました。コーディネーターには、(財)建設経済研究所・研究理事の丸谷浩明さんをお招

きして、「防災まちづくり活動 継続のヒント」をテーマに意見交換が進められました。

パネリストの皆様からは、「小単位の町内会だからできることから始めよう。」「子供が関わると止められない。子供たちをうまく巻き込もう。」「遊びながら地域を知ることによって地域のネットワークづくりができる。」「地域住民の結束力なくしては、災害に立ち向かえない。」等の防災まちづくり活動の実践に裏打ちされたメッセージが発せられました。

こうした報告を受けて、丸谷さんからは、防災ボランティア団体と住民団体の活動を地域毎にうまく組み合わせるというのがポイントであって、両者が集う今回のような機会を活かして欲しいとの呼びかけが行われました。

来る平成 21 年度には、例年どおり参加団体の公募が予定されています。詳細は、今後内閣府ホームページ等を通じてお知らせいたしますので、奮ってご応募下さい。

2. 事務局より

お知らせ

本会と直接関係のある内閣府、国交省の移動の一部を以下に掲載します。(現所属と氏名・敬称略)

- ① 大森雅夫 内閣府 政策統括官 (防災担当)
- ② 増田優一 国交省 官房長
- ③ 加藤利男 国交省 都市・地域整備局長
- ④ 渋谷和久 国交省 大臣官房広報課長
- ⑤ 森下 淳 国交省 近畿地方整備局企画部防災課長

私と NPO 法人

(社) 日本技術士会近畿支部幹事 ・建設部会副会長 杉本 哲雄

はじめまして、「杉本」といいます。私と本 NPO 法人との関わりは、阪神・淡路大震災が有った平成 7 年に遡ります。平成 7 年 1 月当時、私は住宅・都市整備公団北摂・北神開発事務所事業計画課長をしていま

した。大震災直後から通常の事業を行いながら震災対応に追われることとなりました。何をしたかと云いま

すと三田市での事業被害が軽症のため被災者救援や震災調査団の拠点に私たちの事務所がなり、このため特に調査団を受け入れ用の宿泊所確保や特にひどい被災地ヘルート確保協議を地元警察署と行い「通行パス」を取得したりしていました。後に、宿泊所も手一杯になり、私たちの事務所で調査団が寝泊りすることとなり、インフルエンザに罹った人を病院まで連れて行ったりして民宿のオヤジのようなことも経験しました。大震災直後は、そんなことで、睡眠不足と戦いながらほとんど帰宅も出来ず吾ながら良く働けたなあと思います。

その平成 7 年度末、技術士試験に合格後暫くしてから山田さんから日本技術士会への入会の勧誘を受け平成 10 年頃入会をしました。それから何回か神戸で震災対策技術展と同時開催のセミナーを日本技術士会近畿支部建設部会が主催(私も参画)し好評を得て今日まで続けてきています。この過程の中で、本 NPO 法人を立ち上げようということとなり山田さんたちが中心となって本 NPO 法人が立ち上がりました。私は、身分上、立ち上げ発起人メンバーには成り得ませんでした。「会」の名前等、組織等検討メンバーとして協力しました。話が長くなりましたが、こういう関りが本 NPO 法人とあり、今も、本会の森田理事と同じく日本技術士会近畿支部建設部会副会長として毎年、震災対策セミナー等に参画しており側面的な支援をさせていただいています。

日本技術士会近畿支部建設部会では、研修旅行なども行っています。今年の春頃、「近畿は、今」の研修旅行シリーズで 1 日目は、「人と防災未来センター、スプリング 8」、2 日目は、歴史的な建造物を見学する企画を練っているところです。この「ニューズレター」第 17 号の読者も時間と気が許せるならば是非ご参加をお願いします。

日本技術士会の活動としては、会員拡大の一環として JABEE 認定校に技術士制度普及を行い技術士受験者増に貢献するため、私も近畿支部管内の担当実行委員をしています。昨年 9 月に某大学に赴き説明をして参りました。公益法人改革は 5 年以内に実施する

こととなっております、日本技術士会でも、今後改革が続くと思われませんが、私も科学技術の発展のため一翼を担って行きたいと存じます。今年も何卒よろしくお願ひします。

以上

3. 行事予告

新春早々、恒例の神戸国際会議場における「災害対策セミナーin 神戸」をはじめとして下記の行事が開催されます。多数のご参加をお待ち申し上げます。

(1) 第2回「災害対策セミナーin 神戸」 大震災を経験して14年 —防災・減災活動の方向—

理事 森田 孝雄

- 日時：2009年1月16日（金）10:00～12:00
- 場所：神戸国際会議場 503・504・505 会議室
- 主催：（社）日本技術士会近畿支部建設部会
- 共催：（社）日本技術士会近畿支部・NPO 法人都市災害に備える技術者の会
- 後援：（社）日本技術士会建設部会・防災支援委員会
- 主題：「大震災を経験して14年—防災・減災活動の方向—」

[内容]

- (1) NPO 法人の創立来の経過とその成果について
- (2) その成果と評価—その中では特に NPO 法人の創設と活動—
- (3) その結果を用いて今後の活動の展開

- 開会挨拶：（社）日本技術士会会長 高橋 修
- 開講に当り：（社）日本技術士会近畿支部顧問 建設部会長 山田 俊満
- 基調講演：NPO 法人の今後の展開への期待
京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授
河田 恵昭
- パネルディスカッション
パネリスト：NPO 法人「都市災害に備える技術者の会」名誉理事長 笹山 幸俊
パネリスト：立命館大学国際関係学部
国際関係学科3回生 中野 元太

パネリスト：大阪府泉南市長 向井 通彦
パネリスト：（社）日本技術士会会長 高橋 修
コメンテーター：関西学院大学総合政策学部教授・当 NPO 法人理事長 室崎 益輝

- 1) 災害（防備と復興）への参加（特に学生ボランティア活動）
- 2) 災害時要援護者への対策と特に平時のトレーニング
- 3) 市民団体と公共団体の協働作業についての平時よりのトレーニング
- 4) その他、今後の展望と期待

総括コーディネーター：（社）日本技術士会近畿支部
顧問、建設部会長 山田 俊満

- 閉会挨拶：元（社）日本技術士会会長 梅田 昌郎
- 参加人数：150名（予定）
- 問合せ先：（社）日本技術士会近畿支部建設部会
- 申込み先：〒550-0004 大阪市西区靱本町1-9-15
近畿富山会館ビル2階
（社）日本技術士会近畿支部建設部会
山田 俊満、森田 孝雄
TEL：06-6444-3722、FAX：06-6444-3722
E-mail：pe@ipej-knk.jp
- 資料代：1,000円

(2) 第12回「奈良市防災講演会」 災害時要援護者としての防災・減災への 取り組み—車いす使用者の視点から— 監事 清水 煌三

（財）奈良市防災センターの要請に応じて、車いす使用者である清水煌三氏が災害時要援護当事者として標記の演題で講師を務めます。

- 日時：2009年1月17日（土）13:30～15:00
- 場所：奈良市防災センター
奈良市八条5-404-1
- 主催：（財）奈良市防災センター
- 内容：詳細は下記ホームページでご確認ください。
<http://www.ac.auone-net.jp/~narabou/saki/newpage2.html>

4. 活動報告

(1)WG-Aの活動報告 佐藤 祐一 (京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 助教)

2008年10月4日(土)14:00~15:30、café進々堂(京都市左京区北白川追分町)において、防災カフェ「関西壊滅!?大地震!君は生き残れるか?」が開催されました。講師として私、佐藤が、(1)もし上町断層や花折断層で地震が起きたら、(2)もし海溝性の長周期地震が起きたら、という2つの可能性について、模型実験を交えながら解説しました。

カフェ終了後、参加者から阪神大震災の体験を聞かせていただきました。



阪神大震災当時、大阪の病院に入院されていた参加者の話:「当時、新築病棟の13階のベッドで、心電図装置をつないだ状態で寝ていました。激しい揺れに襲われ、必死で心電図の機械を抱きかかえました。病室内では固定していないベッドが暴走しました。ベッドと壁の間に手を挟んで負傷した人もいました。この時に採取された心電図で、論文を書かれた先生がいました。建物は大丈夫でも、ベッドその他の固定対策を講じておく必要があると思います。」

琵琶湖西岸断層帯の被害予想への意見も寄せられ、今後30年に琵琶湖西岸断層がずれて発生する地震の確率は0.09%~9%と教えていただきました。同断層帯は、最近では1662年にマグニチュード7.0~7.6、1819年にマグニチュード7.0程度の地震を発生させたと推定されています。本カフェ開催にご協力いただきましたcafé進々堂様に心よりお礼申し上げます。

以上

(2)WG-Bの活動報告

WG-B代表 石川浩次 (企画委員)

WG-Bは、「津波・地震災害を考える」活動グループです。

現下の取組みとして、対外的な研究調査活動を個別に行うこととしました。その中で、新潟県中越沖地震や中国四川省地震等に関する被害・研究・調査等の資料収集を行いました。

また、2008年11月には、中国上海市工程師技術協会主催の省エネ・排出削減シンポジウム・地震対策分科会に出席して、「これからの都市の地震防災の整備に向けて一提言」の講演を行いました。また、同済大学とも交流を行い、災害対策関係に関する講演及び学術交流を行いました。

今後は、メンバー共同の津波・地震防災・減災対策に関する調査研究活動を推進する予定です。以上

(3)WG-Cの活動報告

WG-C代表 太田 英将 (理事)

WG-Cは、「谷埋め盛土防災を考える」をテーマとしています。1995年阪神・淡路大震災の時に、阪神間で100箇所以上の宅地谷埋め盛土が変動し、その上に建っている家屋が壊れました。2004年新潟県中越地震では、崩れ去った宅地盛土が繰り返しマスコミ報道されたことによって社会的に認識されるようになり、2006年の宅地造成等規制法改正につながりました。その際に、当NPO法人では、阪神・淡路大震災時の資料調査や、谷埋め盛土滑動崩落のメカニズム解明、対策提案、普及支援などに関わってきました。現在20以上の自治体において、第一次スクリーニング(造成宅地の分布把握)が行われ、いくつかの自治体では第二次スクリーニング(詳細調査・安定解析)が始まっています。地震時の宅地地盤変動に関するマスコミ報道も珍しくなくなってきました。

ワーキンググループCとしては、今後も谷埋め盛土

防災の普及支援（マスコミ対応、講師派遣等）を継続的にいき、また節目節目で建設的な提案を行っていきこうと考えています。以上

(4)WG-Dの活動報告

WG-D代表 伊藤東洋雄（事務局員）

1. 平成20年5月24日に平成20年度第一回会議（通算9回）を開催しました。この内容は「ニューズレター16号」で既報のため詳細は省略させていただきます。

2. 平成20年6月17日、中川 徹氏（奈良・災害から文化財を守る会代表幹事前奈良市あやめ池地区自治連合会長）を訪問し、当NPO法人との連携を図りました。また、6月19日インテックス大阪で開催予定の「第2回震災対策技術展」大阪への案内をし、出席していただくことができました。

3. 平成20年7月12日、平成20年度定期総会に先立ち上記WG-Dの第二回会議を開催しました。（出席者5名）

主な議題は前回会議で取り組むこととなった「掲示板」の進捗報告他です。

※注）「掲示板」とは、学校で先生が防災教育を行う際、話題提供できる資料（実際にあった出来事・裏話など）を作成し当NPO法人のホームページで公開し、広く利用して戴く取り組みです。この「掲示板」を一般の方々に広く利用して戴くため、当NPO法人のホームページのみでなく、室崎先生が所長をされている関西学院大学災害復興制度研究所のホームページにもリンクさせて戴くこととなりました。

4. 平成20年10月4日、平成20年度第三回会議（出席者5名）を開催しました。

主な議題は、以下の通りです。

(1) 防災教材「ビジュアル版 幸せ運ぼう」（神戸市、神戸大学、読売新聞、読売テレビ制作）が新しく発行されたため、要所を見て感想を述べ合いました。内容は、・こんなことがあった・命を守る ・共に生きるというキーワードで編集されており、事実の記録・伝達に主眼を置いています。

従って、当WG-Dで今後原因追求と対策を

追加した続編（解説版）の作成に取り組むこととなりました。また、教育の場でこの資料がどのような使われ方をしているかについても調査することになりました。

(2)小学生向け教材「掲示板」の作成状況について意見を出し合いました。

現状はネタが何点か投稿されているものの他の自治体やグループが作ったものの情報提供であり、オリジナルなネタをさらに収録するため、今後は会議時に話題を出し、それを記事に纏めることとしました。

5. 平成20年10月30日、京都市立伏見工業高校において出前講義を開催しました。

講師：太田英将事務局次長

受講生：都市情システムコース2年生33名

講義名：「新しい時代の地盤技術者の役割」

その他：伏見工業高校のほか、都島工業高校（大阪市）、兵庫工業高校（兵庫県）、新見工業高校（岡山県）などとも連携を図っていく予定です。

以上

WGにおける人の動き

当NPO法人ワーキンググループ（WG）のリーダーの移動について報告いたします。

まちづくり・教育に関して活動中の「WG-A」活動報告の中で報告していただいたように、佐藤さんは一般市民に広く震災に関する知識を高めてもらおうと、「防災カフェ」というユニークなイベントを企画・運営されています。

尚、「WG-A」のリーダーについては三輪泰司さんから西山峰広（京都大学大学院工学研究科建築学専攻建築構法学講座教授）さんに交替されます。

★変更届け提出のお願い★

ご入会後に勤務先、住所などに変更がある場合、変更届けの提出をお願いいたします。変更届けは、HPよりダウンロードできます。すみやかにご提出いただきますようお願いいたします。

（事務局）

★WGのご案内★

随時 WG を開催しています。活動中の WG は、

- 西山峰広さんがリーダー
「まちづくり・教育」WG
- 石川浩次さんがリーダー
「津波・地震災害軽減を考える」WG、
- 太田英将さんがリーダー
「谷埋め盛土防災を考える」WG
- 伊藤東洋雄さんがリーダー
「当 NPO 法人の具体的活動について」WG

WG に参加するためには登録が必要です。

詳細はホームページでご確認ください。

<http://toshisaigai.net/wg/working.html>

★会費納入のお願い★

本年度（20年度）の会費納入がまだの方は速やかにお振込みいただきますようお願いいたします。

一般会員：¥5,000 賛助会員：¥25,000

【振込先】

銀行名：みずほ銀行

支店名：天満橋支店

口座番号：8072070

口座名：特定非営利活動法人

都市災害に備える技術者の会

5. Calendar

2009年 カレンダー 平成21年																																																											
1 January							2 February							3 March							4 April							5 May							6 June																								
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																		
			1	2	3		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4						1	2		1	2	3	4	5	6																		
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13																		
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20																		
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27																		
25	26	27	28	29	30	31								29	30	31					26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30																						
																												31																															
7 July							8 August							9 September							10 October							11 November							12 December																								
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																		
			1	2	3	4							1			1	2	3	4	5				1	2	3						1	2	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5												
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12																		
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19																		
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26																		
26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31																					
							30	31																																																			

行事予定 1月16日(金) 第28回研修会(第2回災害対策セミナーin神戸)

6月4日(水) 研修会(第2回災害対策技術展in大阪) 予定

6月中旬 総会予定

(ニューズレター発行は年3回を目標としております)

=編集後記=

会員の皆様には新年のお慶びを心より申し上げます。さて、室崎理事長が頭書で申し述べていらっしゃるように、刻々と迫る大地震の発生に備えて皆様と手を携えて当 NPO 法人活動を休むことなく、それぞれの専門分野の技術や知識などを活かしながら活動を継続していくことが強く求められていると思われまます。まずは、会員皆様のご健勝、そして 2009 年の安全・安心を心より願って編集後記といたします。(K. S)